

平成 26 年の食中毒発生状況

平成 26 年に全国および東京都内で発生した食中毒事件の概要と特徴について、厚生労働省医薬食品局食品安全部並びに東京都福祉保健局健康安全部の資料に基づいて紹介する。

1. 全国における発生状況

食中毒事件総数は 976 件、患者数は 19,355 名（死亡者 2 名）であり、事件数は前年比 1.05、患者数は前年比 0.93 であった。事件数は 2 年連続で 1,000 件を下回った。患者数が 20,000 人を下回ったのは食中毒統計が公表された昭和 27 年以降初めてのことである。

事件数を原因物質別に見ると、細菌性食中毒は 440 件（45.1%）、前年比 1.22 であった。原因菌別の第1位はカンピロバクターで 306 件（31.4%）、以下、サルモネラ 35 件（3.6%）、黄色ブドウ球菌 26 件（2.7%）、腸管出血性大腸菌 25 件（2.6%）、ウエルシュ菌 25 件（2.6%）、腸炎ビブリオ 6 件（0.6%）、セレウス菌 6 件（0.6%）、腸管出血性大腸菌以外の大腸菌 3 件（0.3%）、エルシニア、チフス菌 1 件、ナグビブリオが各 1 件（0.1%）、その他の細菌が 5 件（0.5%）であった。

細菌性食中毒の患者数は 7,210 名（37.3%）、前年比 1.19 でやや増加した。患者数の多い原因菌は、ウエルシュ菌（2,373 名）で、次いでカンピロバクター（1,893 名）、黄色ブドウ球菌（1,277 名）であった。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒は 3 件発生した。その内訳は、①ウエルシュ菌による「キーマカレー」を原因食品とする事件（患者数 900 名）、②黄色ブドウ球菌による「鳥そば（三色丼弁当）」を原因食品とする事件（患者数 741 名）、③腸管出血性大腸菌 O157 による花火大会の露店で販売された「冷やしきゅうり」を原因食品とする事件（患者 510 名）である。

また、「馬刺し」を原因とした腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒事件が発生した。患者は 11 都県 88 名と広域にわたり、同じ食肉処理業者が出荷した馬刺しを喫食していた。複数の未開封馬刺し製品から、患者と同一遺伝子型の腸管出血性大腸

菌 O157 が検出されたことなどから、処理加工段階での汚染があったと推定された。

一方、ノロウイルスによる食中毒は事件数 293 件（30.0%）、患者数 10,506 名（54.3%）であった。前年比は事件数 0.89、患者数 0.83 と減少した。1 事件あたり患者数 500 名以上の大規模食中毒は 1 件発生し、浜松市で発生した「食パン」を原因とする患者 1,271 名の事件であった。従業員からの二次汚染が原因と推定された。

昨年より食中毒病因物質の種別に追加されたアニサキスは 79 件、クドア・セブテンブククタータは 43 件であった。

化学物質による食中毒は 10 件、植物性自然毒は 48 件、動物性自然毒は 31 件であった。その他の 1 件はサポウイルスと毒素原性大腸菌 O6 の混合感染であった。死者は 2 名で、1 名は植物性自然毒（イヌサフラン）、1 名は動物性自然毒（ふぐ）によるものであった。

2. 東京都における発生状況

都内の食中毒発生状況は、事件数 103 件（患者数 1,096 名）であり、平成 25 年の事件数 87 件（患者数 1,324 名）と比べ、事件数は 1.18 倍に増加したが、患者数は 0.83 倍と減少した。これは患者数 100 名以上の事件がなかったためである。

食中毒 103 件中、細菌によるものは 58 件（56.3%）であった。原因菌ではカンピロバクターが最も多く 36 件（35.0%）、以下、サルモネラ 8 件（7.8%）、腸管出血性大腸菌 5 件（4.9%）、黄色ブドウ球菌 4 件（3.9%）、セレウス菌 3 件（2.9%）、ウエルシュ菌 2 件（1.9%）、チフス菌 1 件（1.0%）であった。平成 26 年 9 月に渡航歴のないチフス症患者が複数確認されたため、調査が行われた結果、共通の飲食店が原因であることが確認された。当該施設の調理従業員 1 名からチフス菌を検出し、疫学調査結果から「生サラダ」が原因食品として推定された。チフス菌による食中毒事件は平成 12 年に本菌が食中毒の病因物質に追加されて以降、我が国で初めての事例となった。チフス菌は、ヒトが保

菌し、患者、保菌者の便・尿により汚染された食物、水を介して経口感染する。腸チフスの潜伏期は 7～14 日間と長く、感染源の特定が非常に困難であり、今回、原因が特定されたのは貴重な事例である。

ノロウイルスによる食中毒は、事件数 22 件 (21.4%)、患者数 600 名 (54.7%)であった。前年比はそれぞれ0.88および1.05で、事件数、患者数ともに前年とほぼ同数であった。

化学物質による食中毒 2 件はヒスタミンによるも

のであった。植物性自然毒による食中毒は1件で、ヨウシュヤマゴボウによるものであった。

アニサキスによる食中毒は 12 件発生した。クドア・セプテンブクタータによる食中毒は 4 件発生し、全てヒラメを喫食していた。また、原因物質不明 3 件のうち、1 件はヒラメを喫食者していた。

食中毒事件数は、年々減少傾向にある。しかし、広域、大規模となる事例も発生しており、それらは社会的影響も大きいことから引き続き食中毒の予防に努めていかねばならない。

平成26年の食中毒発生状況

原因物質	全国			東京都		
	事件数(%)	患者数(%)	死者数	事件数(%)	患者数(%)	死者数
サルモネラ	35 (3.6)	440 (2.3)	—	8 (7.8)	26 (2.4)	—
黄色ブドウ球菌	26 (2.7)	1,277 (6.6)	—	4 ¹⁾ (3.9)	17 ¹⁾ (1.6)	—
腸炎ビブリオ	6 (0.6)	47 (0.2)	—	—	—	—
腸管出血性大腸菌	25 (2.6)	766 (4.0)	—	5 (4.9)	14 (1.3)	—
その他の病原大腸菌	3 (0.3)	81 (0.4)	—	—	—	—
ウエルシュ菌	25 (2.6)	2,373 (12.3)	—	2 (1.9)	50 (4.6)	—
セレウス菌	6 (0.6)	44 (0.2)	—	3 ¹⁾ (2.9)	25 ¹⁾ (2.3)	—
カンピロバクター	306 (31.4)	1,893 (9.8)	—	36 (35.0)	211 (19.3)	—
エルシニア	1 (0.1)	16 (0.1)	—	—	—	—
チフス菌	1 (0.1)	18 (0.1)	—	1 (1.0)	18 (1.6)	—
ナグビブリオ	1 (0.1)	1 (0.0)	—	—	—	—
その他の細菌	5 (0.5)	254 (1.3)	—	—	—	—
細菌性総数	440 (45.1)	7,210 (37.3)	—	58 (56.3)	356 (32.5)	—
ノロウイルス	293 (30.0)	10,506 (54.3)	—	22 ²⁾ (21.4)	600 ²⁾ (54.7)	—
その他のウイルス	8 (0.8)	201 (1.0)	—	2 ²⁾ (1.9)	34 ²⁾ (3.1)	—
アニサキス	79 (8.1)	79 (0.4)	—	12 (11.7)	12 (1.1)	—
クドア・セプテンブクタータ	43 (4.4)	429 (2.2)	—	4 (3.9)	40 (3.6)	—
サルコシステイス	—	—	—	—	—	—
化学物質	10 (1.0)	70 (0.4)	—	2 (1.9)	5 (0.5)	—
植物性自然毒	48 (4.9)	235 (1.2)	1	1 (1.0)	1 (0.1)	—
動物性自然毒	31 (3.2)	53 (0.3)	1	—	—	—
その他	1 (0.1)	123 (0.6)	—	—	—	—
原因物質不明	23 (2.4)	449 (2.3)	—	3 (2.9)	71 (6.5)	—
合計	976 (100.0)	19,355 (100.0)	2	103 (100.0)	1,096 (100.0)	—

1)1事件(患者数5名)は黄色ブドウ球菌及びセレウス菌との混合感染(重複)

2)1事件(患者数23名)はノロウイルス及びサボウイルスとの混合感染(重複)

表1 検査機関別検査件数及び病原菌検出状況

2015年2月分

検査機関名	検査件数	病原菌検出状況													
		コレラ菌		赤痢菌					チフス菌	パラチフスA菌	その他のサルモネラ	腸管出血性大腸菌	その他*	合計	
		O1, O139	O1, O139以外	A	B	C	D	計							
千代田区千代田保健所	218														
中央区保健所	1031											1		1	2
港区みなと保健所	59														
新宿区保健所	16											7		22	29
文京区保健所保健サービスセンター 本郷支所	80													1	1
台東区台東保健所	57													5	5
墨田区保健所	1268														
江東区深川南部保健相談所	133														
品川区保健所検査室	74														
目黒区碑文谷保健センター	1777											2			2
大田区保健所	0														
世田谷区世田谷保健所	76													2	2
渋谷区保健所															
中野区保健所	1														
杉並区衛生試験所	1274											2		1	3
豊島区池袋保健所															
北区保健所	1665														
荒川区保健所	178														
板橋区保健所	0														
練馬区保健所	4587											3		1	4
足立区衛生試験所	669														
葛飾区保健所	0														
江戸川区保健所	3539								1					18	19
小計	16702								1			15		51	67
島しょ保健所大島出張所	173														
島しょ保健所三宅出張所	101														
島しょ保健所八丈出張所	96														
島しょ保健所小笠原出張所	57														
小計	427														
健康安全研究センター	1440 (2)											3		11	14
小計	1440 (2)											3		11	14
合計	18569 (2)											18		62	81

() : 海外旅行者分再掲

* : 表2参照

表2 病原微生物検出状況(全国及び東京都)

菌 種 名	全国 (2015年1月分)		東京都 (2015年2月分)		
	地研・保健所		健康安全 研究センター	島しょ・区 検査機関	民間登録 衛生検査所
大腸菌	46				582
毒素原性					
組織侵入性					
病原血清型	1				
腸管出血性	39				582
その他・不明	6				
赤痢菌		(1)			
A群					
B群		(1)			
C群					
D群					
その他・不明					
チフス菌				1	
パラチフスA菌					
その他のサルモネラ	6		3	15	26
O4	1			6	13
O7	3			3	4
O8			3	5	3
O9	1				6
その他	1				
不明				1	
エルシニア・エンテロコリテカ	3				6
エルシニア・シュードツベルクローシス					
コレラ菌(O1)		(1)			
コレラ菌(O139)					
コレラ菌(O1, O139以外)					
腸炎ビブリオ					3
その他のビブリオ					1
エロモナス					45
ブレジオモナス・シグロイデス					4
カンピロバクター	14		11	15	201
黄色ブドウ球菌	4			6	184
A型ウエルシュ菌	5			4	50
ボツリヌス菌					
リステリア・モノサイトゲネス				2	
セレウス菌					
淋菌					41
クラミジア・トラコマチス					
髄膜炎菌					
レンサ球菌(A群)	39				319
レンサ球菌(B群)	1				2184
レンサ球菌(CまたはG群)	3				
レンサ球菌(その他)					469
肺炎球菌	21				1204
ジフテリア菌					
百日咳菌	6				
インフルエンザ菌	1				
レジオネラ	3			6	3
肺炎桿菌					
結核菌					
非結核性抗酸菌					
マイコプラズマ	1				
レプトスピラ					
赤痢アメーバ					3
マラリア					
その他	2			18	
合計	155	(2)	14	67	5325

() : 海外旅行者分のうち、全国は別掲、東京都は再掲

全国の数字は「病原微生物検出情報」(国立感染症研究所)より引用
民間登録衛生検査所の集計値は、LSIメディエンス株式会社の協力による

表3 性感染症検査成績

2015年2月分

東京都健康安全研究センター

区 分	梅毒検査		クラミジア検査				淋菌遺伝子検査	
			抗体検査		遺伝子検査			
	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性	検査数	陽性
保健所*	198	4	69	16	124	8	76	1
累計(2015年1月～)	382	5	136	32	238	13	147	1

保健所* : 当センターで検査した区または都保健所検体の合計

梅毒検査** : TPLA法とRPR法にてスクリーニングを行い、TPHA法・TPLA法中和試験にて特異性を確認した。

区及び島しょ保健所

	梅毒血清反応			クラミジア抗体				
	検査件数	STS法 陽性	TP抗原法 陽性	検査件数	陽性件数	内訳		
						IgA 抗体陽性	IgA/IgG 抗体陽性	IgG 抗体陽性
男	75	2	2	72	16	3	6	7
女	34	0	0	31	5	0	3	2

表4 都内性感染症病原体定点医療機関から送付された検体の細菌検査成績

2015年2月分

東京都健康安全研究センター

検査項目		検査数	検出数	検査材料	臨床診断名
梅毒	遺伝子	1	1	潰瘍病変部位擦過物/ 分泌物	梅毒(疑)
クラミジア	トラコマチス	34	10	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物、尿	尿道炎、淋菌性尿道炎 クラミ ジア肺炎/細菌性膣炎
ナイセリア	淋菌	34	8	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物、尿	尿道炎、淋菌性尿道炎 カン ジダ肺炎
	培養	34	1	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物、尿	

表5 HIV検査数および陽性数

2015年2月分

東京都健康安全研究センター

区 分	男性		女性		性別不明		合計	
	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数	検査数	陽性数
東京都南新宿検査・相談室	519	6	212	0	0	0	731	6
特別区保健所	190	1	93	0	0	0	283	1
確認検査依頼	1	1	0	0	0	0	1	1
合計(2015年 2月分)	710	8	305	0	0	0	1015	8
累計(2015年 1月～)	1435	16	597	1	1	0	2033	17

区及び島しょ保健所

	男	女	不明
検査者数	238	97	0
陽性者数	1	1	0

表6 東京都におけるヒト由来ウイルス検出状況

2015年2月分

東京都健康安全研究センター

ウイルス/型	検出数	検査材料	臨床診断名
インフルエンザ AH1pdm09型	26	咽頭拭い液	インフルエンザ
	16	咽頭拭い液、鼻汁	インフルエンザ、気管支炎
	12	咽頭拭い液、鼻汁	インフルエンザ
アデノ	1型	咽頭拭い液	肺炎
	31型	糞便	感染性胃腸炎
	型別不明	咽頭拭い液、糞便	咽頭炎、肺炎、気管支炎、胃腸炎
コクサッキー	A群16型	咽頭拭い液	手足口病
		髄液	無菌性髄膜炎
ライノ	7	咽頭拭い液	細気管支炎、咽頭炎、不明熱
単純ヘルペス	1型	咽頭拭い液、陰部尿道頸管擦過物/分泌物	急性咽頭炎、性器ヘルペス感染症
	2型	皮膚病巣	性器ヘルペス感染症
EB	2	咽頭拭い液	耳下腺腫脹、不明熱
ヒトヘルペス	6型	咽頭拭い液	不明発疹症、突発性発疹、不明熱、麻しん
麻しん	型別不明	咽頭拭い液	不明発疹症
ムンプス	1	咽頭拭い液	流行性耳下腺炎
RS	1	咽頭拭い液	肺炎
ヒトパルボ	B19	咽頭拭い液	不明発疹症
ノロ	G1型	直腸拭い液	感染性胃腸炎
	G2型	直腸拭い液、糞便	感染性胃腸炎
サポ	1	糞便	感染性胃腸炎
ロタ	A群	直腸拭い液	感染性胃腸炎
ヒトパピローマ	6型	陰部尿道頸管擦過物/分泌物/コンジローマ患部生検	尖圭コンジローマ
	11型	コンジローマ患部生検	尖圭コンジローマ
	90型	陰部尿道頸管擦過物/分泌物	尖圭コンジローマ

表7 東京都におけるウイルス性胃腸炎・食中毒疑い検査成績

2015年2月分

東京都健康安全研究センター

区分	検体数	検出病原体	陽性数
ふん便・吐物	1023	ノロウイルス (G I)	54
		ノロウイルス (G II)	454
		ノロウイルス (G I, G II)	10
		ロタウイルス	0
		サポウイルス	0
		アデノウイルス	0
食品・拭き取り	287	ノロウイルス (G I)	0
		ノロウイルス (G II)	19
		ノロウイルス (G I, G II)	1
合計	1310	陽性数合計	538

表8 ヒト由来抗酸菌検出状況

区及び島しょ保健所

	管理健診	家族健診	接触者健診	その他	計
検査件数	1	0	0	25	26
陽性件数	0	0	0	3	3
結核菌	0	0	0	0	0
非結核性抗酸菌	0	0	0	0	0

◆東京都微生物検査情報◆

2015年 7 月 23日

編集・発行

東京都健康安全研究センター

〒169-0073

東京都新宿区百人町3-24-1

TEL:03-3363-3213

FAX:03-5332-7365

S0000786@section.metro.tokyo.jp

<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>